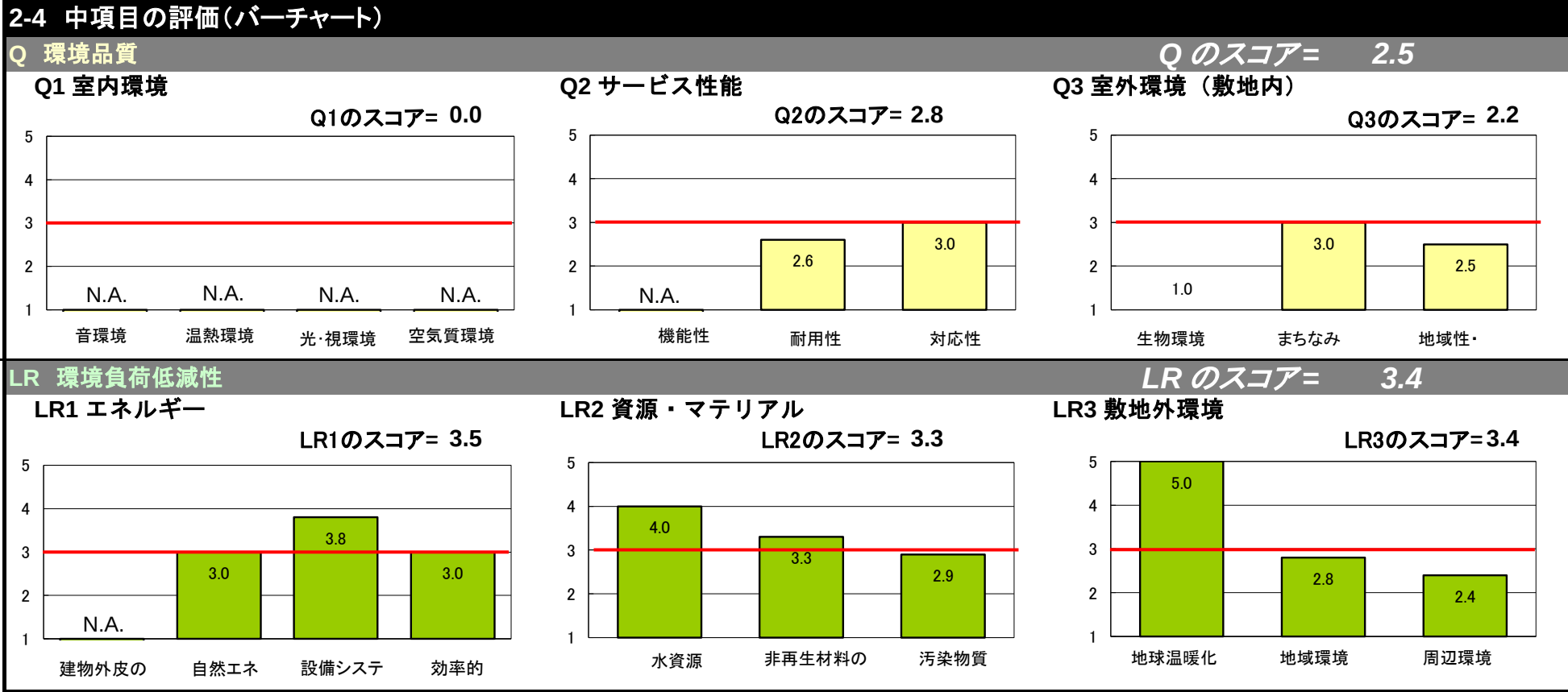
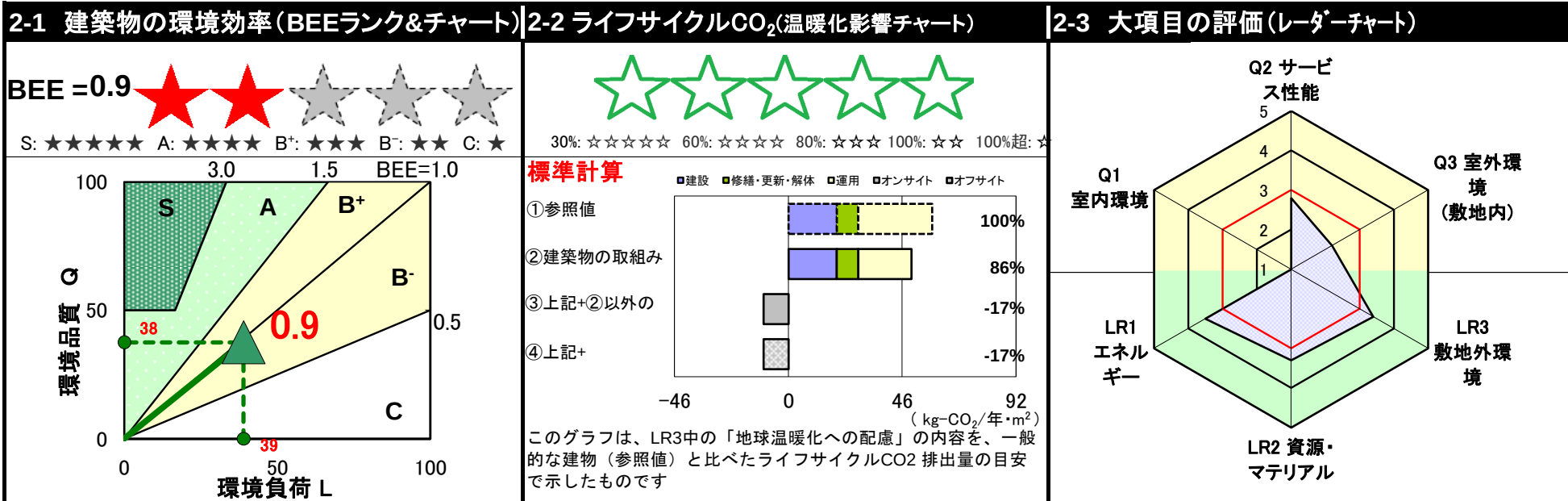


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)熊本下通立体駐車場新築工事	階数	地上8F	
建設地	熊本県熊本市中央区下通2丁目4-5	構造	S造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	1 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年9月22日	
敷地面積	2,068 m ²	作成者	原嶋 真二	
建築面積	1,559 m ²	確認日	2017年9月23日	
延床面積	11,095 m ²	確認者	池田 哲哉	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)熊本下通立体駐車場新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.5
Q1 室内環境							-		-	-
1 音環境						-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル		駐車場のみによる独立建物において「Q-1 室内環境」は評価対象外				-	-	-	-	
1.2 遮音						-	-	-	-	
1	開口部遮音性能					-	-	-	-	
2	界壁遮音性能					-	-	-	-	
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	-	-	-	
4	界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	-	-	
1.3 吸音						-	-	-	-	
2 温熱環境						-	-	-	-	-
2.1 室温制御						-	-	-	-	
1	室温					-	-	-	-	
2	外皮性能					-	-	-	-	
3	ゾーン別制御性					-	-	-	-	
2.2 湿度制御						-	-	-	-	
2.3 空調方式						-	-	-	-	
3 光・視環境						-	-	-	-	-
3.1 昼光利用						-	-	-	-	
1	昼光率					-	-	-	-	
2	方位別開口					-	-	-	-	
3	昼光利用設備					-	-	-	-	
3.2 グレア対策						-	-	-	-	
1	昼光制御					-	-	-	-	
3.3 照度						-	-	-	-	
3.4 照明制御						-	-	-	-	
4 空気質環境						-	-	-	-	-
4.1 発生源対策						-	-	-	-	
1	化学汚染物質					-	-	-	-	
4.2 換気						-	-	-	-	
1	換気量					-	-	-	-	
2	自然換気性能					-	-	-	-	
3	取り入れ外気への配慮					-	-	-	-	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1	CO ₂ の監視					-	-	-	-	
2	喫煙の制御					-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.43	-	-	2.8
1 機能性						-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ		駐車場のみによる独立建物において「Q-2の1.機能性」は評価対象外				-	-	-	-	
1	広さ・収納性					-	-	-	-	
2	高度情報通信設備対応					-	-	-	-	
3	バリアフリー計画					-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性						-	-	-	-	
1	広さ感・景観					-	-	-	-	
2	リフレッシュスペース					-	-	-	-	
3	内装計画					-	-	-	-	
1.3 維持管理						-	-	-	-	
1	維持管理に配慮した設計					-	-	-	-	
2	維持管理用機能の確保					-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.6	0.50	-	-	2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80	-	-	
2	免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						2.9	0.30	-	-	
1	躯体材料の耐用年数					3.0	0.20	-	-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.20	-	-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔					4.0	0.10	-	-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.10	-	-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-	
6	主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						1.2	0.20	-	-	
1	空調・換気設備					1.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備					2.0	0.20	-	-	
3	電気設備					1.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法					1.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備					1.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.50	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり			2.2	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	1.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		4.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.72	3.8	0.63	-	-	3.8
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			4.0	0.20	-	-	4.0
1.1 節水			4.0	1.00	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		-	-	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	-	-	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		5.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.9	0.20	-	-	2.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		2.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	-	-	-	-	
	3	冷媒	2.0	1.00	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮			5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	2.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	-	-	-	-	
	3	悪臭	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		1.6	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	1.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	-	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。
 (建物・敷地全体の環境に配慮したことに関するコンセプト)
 ・慢性的な駐車場不足を補う、使いやすく利便性の高い駐車計画。
 ・周辺環境を配慮した外観デザイン計画。

Q1 室内環境

- 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
 (遮音、温度、湿度、採光、換気など室内環境に配慮した事項)
 ・化学汚染物質を放散しないF☆☆☆☆製品の採用。

Q2 サービス性能

- 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
 (内外装や建物の維持管理・利用者に対する配慮した事項)
 ・錆びにくく耐久性のある仕上げ材の採用。
 ・オストメイトの有る多目的トイレの採用。バリアフリーに対応したELVの採用。

Q3 室外環境（敷地内）

- 注) 「Q3 室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
 (緑地、景観、に配慮した事項)
 ・外壁の一部に壁面緑化を採用。

LR1 エネルギー

- 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
 (高効率機器の採用などに配慮した事項)
 ・省エネルギー機器の採用。(LED照明器具の採用)。

LR2 資源・マテリアル

- 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
 (資源に配慮した事項)
 ・節水型水栓、便器等衛生器具の採用による水資源保護。

LR3 敷地外環境

- 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。
 (建物による周辺地域への影響に配慮した事項)
 ・光害対策の実施(ヘッドライト漏れ光を遮る壁、タイマー制御の採用による点灯時間の適切な管理)。

その他

- 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)熊本下通立体駐車場新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	54
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				53.5	0.40	21.40
Q1-2.1.2	外皮性能	0.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.8	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				46.2	0.20	9.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				45	0.20	9.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	0.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				74.2	0.20	14.84
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数